

時代区分表

区分	時代	始(A)	終(B)	(B)-(A)	NOTE
古代	旧石器	*	~ 14,000	*	
	縄文	14,000	~ 前6C	*	○ギリシャ 都市国家（ポリス） ・国家への奉仕・服従を求める教育（スパルタ） ・教育施設には上流階級の子弟が修学（アテナイ） ・文法学、修辞学、弁論術などの知的教育（アテナイ） (A)
	弥生	前6C	~ 3C	*	
	古墳	3/4C	~ 7/8C	*	○ローマ ・初期は家庭教育、後に学校制度が整備 ・学校には、上流階級の子弟が学んだ ○中世 【社会体制】 ・キリスト教の信仰と教会の体制が基盤の社会 ・農村における共同体の成立 ・商工業者の住む都市文化の発達 ・国王や諸侯による封建体制の確立 【教育の姿】 ・キリスト教の学校：問答学校、僧院学校、本山学校 （教義徹底、僧侶養成、七自由科：文法、修辞学、弁証法、算術、幾何、天文、音楽） ・騎士の教育（宮廷における厳格な騎士道教育） ・ギルドの教育（同業者組合による徒弟教育） (B)
	飛鳥	6C	~ 710	*	
	奈良	710	~ 794	84	
	平安	794	~ 1185	391	
中世	鎌倉	1185	~ 1333	148	○近世 【社会体制】 ・神中心から人間中心の価値観の変化 ・キリスト教会の形式化 ・僧侶の富・権力に起因した腐敗 【宗教改革】 ・ルター（聖書学習奨励・教科書作成、国家による無償の学校設立の提案） ・カルヴァン（信仰と政治と教育の一体化、ジュネー） (B) (C) 【絶対王政】 ・教会及び封建諸侯の衰え ・国王による強力な中央集権の専制政治 ・商工業の実務や技能を身に付けるための実務 (D) (E)
	建武の新政	1333	~ 1335	2	
	南北朝	1336	~ 1392	56	
	室町	1392	~ 1493	101	
	戦国	1493	~ 1573	80	
	安土桃山	1573	~ 1603	30	
近世	江戸	1603	~ 1868	265	(F) (G) 【近代市民社会の誕生】 ・国民的教養、実用知識・技能、大衆教育の必要性の認識 ・公教育制度の発達・確立 (H)
	明治	1868	~ 1912	44	
	大正	1912	~ 1926	14	
近代 現代（戦後）	昭和	1926	~ 1989	63	
現代	平成	1989	~ 2019	30	現代
	令和	2019	~		

※時代区分には諸説あり、上記の区分が絶対的なものではありません。

教育思想家等一覧

区分	人物名	生没年	国名	時代背景及び求められた教育の姿等
古代ギリシア・ローマの教育に関連する人物 (A)	ソクラテス	BC470-399	ギリシャ	<ul style="list-style-type: none"> ・都市国家ポリスを形成 ・宮廷・貴族社会 ・生活に余裕のある上流階級の子弟のみが教育施設に就学 ・一般市民の子弟は生活と労働のかかわりの中で成長
	プラトン	BC427-347	ギリシャ	
	アリストテレス	BC384-322	ギリシャ	
	キケロ	BC106-43	ローマ	
	クインティリアヌス	35-100	ローマ	
ヨーロッパ中世・ルネサンス・宗教改革までの教育に関連する人物 (B)	アウグスティヌス	352-430	ローマ	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の信仰と教会体制を背景とした国王・諸侯による封建体制の確立 ・騎士道（七自由科 文法・論理学・修辞学、算術・幾何、天文、音楽） ・商工業者育成のための徒弟制度（ギルド） ・神中心から人間中心の価値観の変化 ・キリスト教会の形式化、僧侶の富・権力についての腐敗
	ルター	1483-1546	ドイツ	
	カルヴァン	1509-1564	スイス	
17Cの教育に関連する人物 (C)	ラブレール	1494-1513	フランス	<ul style="list-style-type: none"> ・自然科学の発達と近代市民階級の台頭による教育の実学主義化 ・絶対王政下の教育（絶対主義体制の維持、重商主義経済体制の維持） ・学校における組織的な教育の芽生え
	モンテーニュ	1533-1592	フランス	
	ラトケ	1571-1635	ドイツ	
	コメニウス	1592-1670	チェコ	
18Cの教育に関連する人物 (D)	ロック	1632-1704	イギリス	<ul style="list-style-type: none"> ・ルネサンス以来の理性主義、合理主義が全面的に展開 ・個人の解放、幸福の追求のための啓蒙 ・子どもを自由に楽しく学ばせるべきであるという「合自然」の教育の提唱 ・生活に必要な知識、技能の重視
	ルソー	1712-1778	スイス	
	ベスタロッチ	1746-1827	スイス	
	カント	1724-1804	ドイツ	
市民革命・産業革命期に関連する教育に関連する人物 (18C-19C) (E)	ジェファソン	1743-1826	アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> ・市民革命を経て近代市民社会が誕生 ・産業革命を経て生産様式や社会構造が劇的に変化 ・国民的教養、実用知識・技能、大衆教育の必要性の認識
	フランクリン	1706-1790	アメリカ	
	コンドルセ	1743-1794	フランス	
	ベル	1753-1838	イギリス	
	ランカスター	1778-1838	イギリス	
	オーエン	1771-1858	イギリス	
19Cの教育に関連する人物 (F)	フレーベル	1782-1852	ドイツ	<ul style="list-style-type: none"> ・公教育制度の発達 ・私塾、協会、職場等での私的な営み→国家が関与する公教育
	ヘルバルト	1776-1841	ドイツ	
	スペンサー	1820-1903	イギリス	
	ナトルプ	1854-1924	ドイツ	
	モイマン	1862-1915	ドイツ	
	ケルシェンシュタイナー	1854-1932	ドイツ	
	シュプランガー	1882-1963	ドイツ	
	クリーク	1882-1947	ドイツ	
	ウシンスキー	1824-1870	ロシア	
	クルブスカヤ	1869-1939	ロシア	
	マカレンコ	1889-1939	ロシア	
	新教育運動に関連する人物 (19C-20C) (G)	シュタイナー	1861-1925	
パーカー		1837-1902	アメリカ	
デューイ		1859-1952	アメリカ	
キルパトリック		1871-1965	アメリカ	
ウォッシュバーン		1889-1968	アメリカ	
パーカースト		1887-1973	アメリカ	
エレン・ケイ		1849-1926	スウェーデン	
モンテッソリ		1870-1952	イタリア	
ドクロリ		1871-1932	ベルギー	
教育の現代化に関連する人物 (H)		ブルーナー	1915-2016	アメリカ

古代ギリシャ・ローマ

名前（国）	プロタゴラス（ギ）	生 年	BC490-420
主な著書			
キーワード	「人間は万物の尺度である」		

- 古代ギリシャにおいて人々に知識を授けて礼金を取る一種の啓蒙家であるソフィストを代表する哲学者。
- 「人間は万物の尺度である」と説き、各人の主観的判断以外に真理はないとする相対論を主張。

名前（国）	ソクラテス（ギリシャ）	生年	BC470-399
主な著書			
キーワード	『産婆術』 『問答法』 『汝自身を知れ』 『無知の知』		

○古代ギリシアの哲学者

○相手との問答を通して無知を自覚させ、新たな心理へと到達させる「産婆術（助産術）（問答法）」を実践した。

○ソフィストに反対して客観的真理の存在と知徳の合一を説き、内心の声に従うべきことを強調、「汝（なんじ）自身を知れ」と呼びかけた。

名前（国）	プラトン（ギ）	生 年	BC427-347
主な著書	『イデア論』 『国家』 『ソクラテスの弁明』 『饗宴』 『法律』 『メノン』		
キーワード			

- 古代ギリシャの哲学者・ソクラテスの弟子
- 私塾「アカデメイア」を開き、上流階級の知能すぐれた青年に哲学を教えた。
- 人間はみな兄弟姉妹であるが、生まれるときに神から三種の種類の本性が与えられると説いた。①統治者階級、②軍人階級、③生産者・農民階級
- 教育はそれぞれに属する階級にふさわしい個人の天分を開発することとした。

名前（国）	アリストテレス（ギ）	生 年	BC384-322
主な著書	『ニコマコス倫理学』 『政治学』 『オルガノン』 『形而上学』		
キーワード			

- 古代ギリシアの哲学者・プラトンの弟子
- マケドニアに生まれ、アテネの「アカデメイア」でプラトンに学び、少年時代のアレクサンドロス大王を教育した。その後、アテネに「リュケイオン」を開設して、逍遙（しょうよう）学派を始めた。
- 古代ギリシアの学問を論理学・倫理学・政治学および自然科学の各専門分野において体系的に総合した。

名前（国）	キケロ（ロ）	生 年	BC106-43
主な著書	『雄弁家論』 『国家論』 『法律論』 『友情論』		
キーワード			

- 古代ローマの政治家・雄弁家・哲学者
- ギリシア・ローマの古典文芸や聖書原典の研究を元に、神や人間の本質を考察する「人文主義」的な教育理念を最初に明確に理解し根拠づけた。
- 多才と雄弁で名声を得、三頭政治の開始以来共和政擁護を主張した。アントニウスと対立し暗殺された。
- その文体はラテン語散文の模範とされる。

名前（国）	クインティリアヌ（ロ）	生 年	35-100
主な著書	『弁論家の教育』		
キーワード			

- ローマの教育学的理論家・修辞学者
- ローマで修辞学校を開設した。
- ウェスパシアヌス帝によって修辞学教師に任ぜられた。
- 子どもを弁論家に育てるための指導書を著し、弁論術を人格形成と結び付けた。

ヨーロッパ
中世
ルネサンス
宗教改革

名前（国）	アウグスティヌス（ロ）	生 年	352-430
主な著書	『告白』 『三位一体論』 『神の国』 『教師論』		
キーワード			

○初期キリスト教会の偉大な思想家

○青年期マニ教・新プラトン主義などを遍歴、のちキリスト教に回心した。

○故郷北アフリカのヒッポの司教となり、異端との論争を通じてキリスト教の神学的基礎を開いた。

○パウロを高揚し、原罪を負う人間は神の恵みによってのみ救われるという恩恵論を提示した。

名前（国）	ルター（独）	生 年	1483-1546
主な著書	『教理問答書（カテキズム）』		
キーワード	「人間は信仰によってのみ義とされる。」		

○ドイツの宗教改革者

○ザクセン選帝侯の保護下でドイツ語訳聖書を完成した。

○初等教育のテキストとして、『教理問答書（カテキズム）』を著した。

○公教育制度について、国家が学校を設立し、すべての男女に無償の普通教育を受ける義務と権利を求めた。

○学校教育の福音化を唱えて聖書の学習を奨励した。

○福音主義の学校の設立・維持を政治家に勧告した。

名前（国）	カルヴァン（ス）	生 年	1509-1564
主な著書	『キリスト教綱要』 『ジュネーブ協会条例ならび同市の学則』		
キーワード			

○スイスの宗教改革者

○『ジュネーブ協会条例ならび同市の学則』により、ジュネーブの神聖都市国家の教育計画を立て、信仰と政治と教育の一体化を目指した。

○1559年「ジュネーブアカデミー」を設立

○思想は、独・仏・英から北米に波及し、近代の学校制度の基礎となった。

17世紀

名前（国）	ラブレー（仏）	生 年	1494-1513
主な著書	『ガルガンチュワ物語』 『パンタグリユエル物語』		
キーワード	人文的実学主義		

○フランス・ルネサンス最大の物語作家， 医師。

○風刺物語『ガルガンチュワ』と『パンタグリユエル』の中で巨人ガルガンチュワの体験から、旧弊の教育が古典の暗誦に終始し、結局無気力な人間を作ってしまったことを批判、むしろ人の善性を信じ、日常生活から多くのことを学ぶこと、明朗で規律のある生活の意味を提起した。

○強制的訓練の排除、実学的知識の尊重、直観的・経験的学習の強調など近代教育の先駆的思想を展開。

名前（国）	モンテーニュ（仏）	生 年	1533-1592
主な著書	『随想録』		
キーワード	社会的実学主義		

○フランスの思想家、モラリスト

○主著『随想録』は柔軟な人間性、厳密な思考、ルネサンス人文主義の古典的教養に裏打ちされたモラリスト文学の最高傑作である。

○自然の研究と自国語による実用の教育を主張した。

○社会生活の経験を通しての人間形成に重点を置いた。

名前（国）	ラトケ（独）	生 年	1571-1635
主な著書	『合自然の原則』 『一般言語教授法序説』 『キリスト教学校の全体計画』		
キーワード	感覚的実学主義		

○ドイツの教育学者

○子どもの感覚や直観を重視する、自然の順序に従った合自然の新しい教授法を提唱。

○事実や経験を通して自然や社会を理解する教育を主張。

名前（国）	コメニウス（チェコ）	生 年	1592-1670
主な著書	『大教授学』 『世界図絵』		
キーワード	「汎知学」（パン・ソフィア） 「直観教授」		

○ 17世紀最大の教育思想家・近代教授学の祖

○ 思想の背景には世界を神における一大調和とみる世界観、汎知を通して徳から信仰に至るという認識論とを含む神学がある。

○ この観点から、すべての国の男女が同一の言語によって、階級差別のない単線型学校制度において学問のあらゆる分野を統合した万人に共通必須の普遍的知識の体系「汎知（パンソフィア）」を学ぶ必要を説き、そのための教育方法を自然界の模倣とした。

○ 世界で最初の絵入りの教科書である「世界図絵」を作成。絵図によって外界の事物を直観させながら同時に言語を学ばせることができた。

○ 実物の直観から言語的な説明に移行するという考えを示した。
（直観教授）

18世紀

名前（国）	ロック（英）	生 年	1632-1704
主な著書	『教育に関する若干の考察』 『教育論』 『人間悟性論』 『寛容書簡』		
キーワード	白紙（タブラ・ラサ） 「健全なる精神は健全なる 身体に宿る」		

○イギリスの思想家

○教育とは、子供の精神を白紙ととらえたうえで、白紙に印象を刻むことだとし、能動的な知的活動と後天的な教育に力点を置く精神白紙説（タブラ・ラサ）を唱え、子どもの陶冶可能性を主張した。

○子どもの自由な活動・自発性を信頼し、幼少期の印象・練習・習慣づけによる身体・知識・道徳・精神にわたる多岐な人間育成の可能性を認識し、遊戯や遊具の導入、自己活動、活動衝動などを促した。

名前（国）	ルソー（ス）	生 年	1712-1778
主な著書	『エミール』 『社会契約論』 『学問芸術論』 『人間不平等起源論』		
キーワード	「消極教育」 「自然に帰れ」 「自然の教育」		

- フランスで活躍した社会思想家
- 「子どもの発見者」・「近代教育学の父」
- 著書『エミール』において、「創造主の手から出るときにはすべては善であるが、人間の手にかかると、それらはみな悪いものになってしまう。」と論じた。
- 子どもには自然の善性に基づく固有の成長の法則があると論じ、人為的に不合理な働きかけを行うことにより、人間本来の善性の開花が損なわれてしまおうとした。
→「消極教育」 「自然に帰れ」

名前（国）	ペスタロッチ（チェ）	生 年	1746-1827
主な著書	『隠者の夕暮』 『シュタンツ便り』 『メトーデ』 『ゲルトルート児童教育法』 『白鳥の歌』 『民衆教育』 『リーンハルトとゲルトルート』		
キーワード	「直観教授」 「生活が陶冶する」 「開発教授」 「民衆教育の父」 「労作教育」		

- スイスの教育実践家・貧民教育・戦争孤児への教育など
- 「人間の平等」王座の上にあっても木の葉の屋根の陰に住まっても同じ人間である。
- 「生活が陶冶する」経済的にも愛情的にも安定した家庭生活そのものが人間を発達させるということ。
- 「直観教授」事物に対する直観から子どもたちの認識を発展させる指導方法
- 「労作教育」労働を介して勤勉な労働意欲を育て、産業化していく社会でも自立していけるような、実際的で汎用性の高い知識や技能を授ける教育

名前（国）	カント（独）	生 年	1724-1804
主な著書	『教育学講義』 『純粹理性批判』 『実践理性批判』 『判断力批判』		
キーワード			

○ドイツの哲学者

○『教育学講義』

- ・人間は教育によってのみ人間となることができる。
- ・人間とは教育されなければならない唯一の被造物である。

○人間の自然な資質を尊重し、これを道徳的人格にまで高めることを教育の目的とした。

○教育についての考察は、国家を超えて広く人類や世界市民の在り方に向けられており、極めて理想主義的な思索を展開した。

18世紀～19世紀

市民革命

産業革命

名前（国）	フランクリン（米）	生 年	1706-1790
主な著書	『貧しきリチャードの暦』		
キーワード			

- アメリカの自然科学者・独立宣言の起草者
- 1751年にフィラデルフィアに「アカデミー」を設立した。
- 従来の中高等教育機関が古典語を中心にした宗派性の強い貴族的性格を有していたのに対し、国語（英語）を使って実際生活に役立つ有用な知識を学ばせた。

名前（国）	ジェファソン（米）	生 年	1743-1826
主な著書	知識普及促進法案		
キーワード			

- アメリカの第三代大統領・独立宣言起草者
- 1779年にヴァージニア州議会に国民教育制度の先駆的役割を果たす「知識普及促進法案」を提案した。
- 法案においては、教育の機会均等、公営の単線型学校制度、無償性、宗教からの中立を構想した。

名前（国）	コンドルセ（仏）	生 年	1743-1794
主な著書			
キーワード	「公教育の全般的組織に関する報告と法案」		

○フランスの数学者・哲学者・政治家

○ 教育のための制度や施設の整備は公権力の責任であると主張し、能力主義、単線型学校制度、男女共学、無償性、学校の全国均等配置、公教育の知育の限定、教育の政治や宗教からの独立を骨子とした教育法案を立案した。

○市民革命に伴う政治的混乱から法案は実現しなかったが、近代公教育制度の基本原則となった。

名前（国）	ベル（英）	生 年	1753-1838
主な著書			
キーワード	助教授法（モニトリアル・システム）		

- スコットランドの宣教師・教育学者
- 産業革命を背景に都市に流入した大量の年少者に教育の機会を提供する制度を発案した。
- 英の教育学者ランカスター（1778-1838）とともに、「助教法」＝「モニトリアルシステム」＝「ベル・ランカスター法」を開発し推進した。
- 「助教法」とは、生徒の中で優れたものを助教と定め、助教は教師の指示を受けて他の生徒に教える方法であり、一人の主教授だけで多数の生徒の授業を可能とさせる教授法である。

名前（国）	オーエン（英）	生 年	1771-1858
主な著書	『新社会観』		
キーワード	「性格形成学院」		

- 英の綿工業主・産業革命期の教育改革運動家
- 子どもの成長に対する良好な環境の整備、教育を通じての貧困や犯罪の予防を主張した。
- 紡績工場内に「性格形成学院」を設立し、労働者教育を実践した。
- 低年齢の子どもの雇用や子どもの長時間労働の禁止、雇用主の子どもに対する基礎的な学習の機会の保証などを骨子とする「工場法」の制定にも尽力した。

19世紀

名前（国）	フレーベル（独）	生 年	1782-1852
主な著書	『人間の教育』 『母の歌と愛撫の歌』		
キーワード	「幼児教育」「子どもの園」「人間の教育」「恩物 Gabeと呼ばれる教育遊具」		

- 独の教育学者
- ペスタロッチ思想から大きく影響を受け、幼児教育に偉大な足跡を残した。世界で初めての幼稚園を創設した。
- 幼児が自分の取り巻く世界や人々との一体的な関係を拡大し、実現していくという、幼児の成長について独自の論理を提唱した。
- 幼少年のために、ボールや積み木からなる「恩物Gabeと呼ばれる教育遊具」を考案した。

名前（国）	ヘルバルト（独）	生 年	1776-1841
主な著書	『一般教育学』 『教育学講義綱要』		
キーワード	「4段階教授法」 明瞭一連合一系統一方法 「教育の三領域」 管理・訓練・教授		

- ドイツの哲学者・心理学者・教育学者
- 教育の目的は倫理学から、教育の方法は心理学から導かれるとして教育学の体系化を追求した。
- 教育の作用を管理・教授・訓練の3つに分けた。
- 明瞭一連合一系統一方法の4段階による教授を唱えた。
- 『一般教育学』教授のない教育などというものを認めないし、また逆に教育しないいかなる教授も認めない。

名前（国）	ツィラー（独）	生 年	1817-1882
主な著書			
キーワード	ヘルバルト学派 5段階教授法 中心統合法		

○独の教育学者

○ヘルバルトの思想に宗教学を加えて教育目的の宗教的側面を主張した。

○ヘルバルトの4段階教授法を5段階教授法（分析-総合-連合-系統-方法）に改善した。

○コア・カリキュラムの先駆ともいえる「中心統合法」を提唱した。

名前（国）	ライン（独）	生 年	1847-1927
主な著書			
キーワード	5 段階教授法		

○独の教育学者

○ヘルバルトの4段階教授法を5段階教授法（予備・提示・比較・総括・応用）に改善した。

○日本でも明治中期にハウスクネヒトがヘルバルト学派の教育学を導入し、谷本富（とめり）によって受け継がれた。

名前（国）	スペンサー（英）	生 年	1820-1903
主な著書	『教育論「知育・徳育・体育」』 『社会学原理』		
キーワード			

- 英の哲学者・社会学者・倫理学者
- 個人の完全な生活に有用な実学的知識を重視した。
- 教育論には、進化論的功利主義が見られ、ルソー的な自然主義的教育思想がうかがわれる。
- 日本では、明治13年に尺振八（せき しんぱち）の訳で「斯氏教育論」として出版された。斯氏とはスペンサーの和名

名前（国）	ナトルプ（独）	生 年	1854-1924
主な著書	『社会的教育学』		
キーワード	人はただ人間的な社会においてのみ人間となる。		

○独の哲学者

○教育をもっと社会を通じて行うべきだと主張した。

○ペスタロッチを高く評価し、ヘルバルトの教育学を批判した。

○ヘルバルト派に代表されるような旧来の教育学は個人に対する教育であって、社会のことを考えたものではないと批判し、人は社会の中でのみ成長できると主張した。

○『社会的教育学』

人はただ人間的な社会においてのみ人間となる。

名前（国）	モイマン（独）	生 年	1862-1915
主な著書	『実験教育学』		
キーワード			

- ドイツの心理学者・教育学者・実験教育学の創始者
- 実験心理学の手法を導入して教育学研究の新分野を開いた。
- アメリカの教育研究に影響を及ぼし，教育心理学の発達をもたらした。
- また児童中心主義の教育学説は日本の大正期新教育運動にも影響を与えた。

名前（国）	ケルシエンシュタイナー（独）	生 年	1854-1932
主な著書	『劳作学校の概念』 『公民教育の概念』		
キーワード	劳作教育		

○独の教育学者・教育改革家

○教育の目的として「公民教育」を、その方法として「劳作教育」を取ることを主張した。

○陶冶の実践方法として劳作の原理を主張し、この原理に基づいて知識教育を最小量にとどめ、熟練、劳作の喜悦を与える職業教育を中心とし、公民的陶冶を培う劳作学校の普及に努力した。

名前（国）	シュプランガー（独）	生 年	1882-1963
主な著書	『生の諸形式』 『文化と教育』 『青年心理学』		
キーワード			

○ドイツの文化哲学者・教育学者

○人間の性格の分類を試み、理論的、経済的、審美的、社会的、宗教的、権力志向的という6つの人間の類型化を行った。

名前（国）	クレーク（独）	生 年	1882-1947
主な著書	『教育科学綱要』 『人間形成、比較教育学の根本特徴』		
キーワード			

○独の教育哲学者

○広い視野から無意図的な教育を重視するべきと主張した。

○教育は社会の根本的な機能であるとして、単なる教育技術学の枠を超えた教育科学の樹立を目指した。

名前（国）	ウシンスキー（露）	生 年	1824-1870
主な著書	『教育の対象としての人間』		
キーワード	19世紀ロシア近代教育の父		

○露の教育家

○義務教育の実施や師範教育の充実を主張した。

○公教育は、国民自身の手によって作り出される「国民のための教育」でなければならぬと考えた。

○労働を基底とする人格教育、母語の教育、初等教育を重視した。

名前（国）	クルプスカヤ（露）	生 年	1869-1939
主な著書	『国民教育と民主主義』		
キーワード			

- 旧ソビエト共産党の活動家・教育家・レーニンの夫人
- 国家学会の教育課程の作成の指導を担当した。
- 旧ソビエトの児童を対象とした共産主義組織である「ピオネール」という郊外生徒組織を創設した。
- 「ピオネール」には、ほとんどの子どもたちが加入し、討論会、社会奉仕活動、キャンプ等を経験した。

名前（国）	マカレンコ（露）	生 年	1889-1939
主な著書	『塔の上の旗』 『親のための本』 『教育詩』 『愛と規律の家庭教育』		
キーワード			

○旧ソビエトの作家・代表的教育家

○浮浪児や未成年の法律違反者を収容し再教育する施設「労働コロニー」を組織した。

○子どもの集団の形成を重視する集団主義教育や、愛と規律の家庭教育を主張した。

19世紀～20世紀

新教育運動

(子どもを中心とした教育実践)

名前（国）	シュタイナー（独）	生 年	1861-1925
主な著書			
キーワード			

○独の神秘思想家・哲学者・教育者

○田園教育舎系の新教育運動の推進者で、1919年にシュトゥットガルトで「自由ヴァルドルフ学校」を開設した。

○人間が他者からの指示で行動するのではなく、自己を管理し、自分は何ができるのかを自覚できる存在に到達できるような教育を、独自の人間観に根ざした生活共同体学校で進めた。

○シュタイナーの教育理念に基づく学校が全世界に広がりを見せている。

名前（国）	パーカー（米）	生 年	1837-1902
主な著書	『中心統合理論』		
キーワード	進歩主義教育運動の父 クインシー運動		

○米の教育家

○ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトの教育思想を独自に統合し、「中心統合理論」を出版した。

○各教科を「地歴科」に統合し、周辺に読み方、算術、歴史、自然等を配置するクインシー運動を始めた。

名前（国）	デューイ（米）	生 年	1859-1952
主な著書	『民主主義と教育』 『学校と社会』		
キーワード	「プラグマティズム」「問題解決学習」「為すこと によって学ぶ」「経験主義」「道具主義」「実 験主義」		

- 米の哲学者・教育学者・進歩主義教育運動の指導者
- プラグマティズム（道具主義・実験主義）の影響を受ける。
- 「問題解決学習」を提唱し、「為すことによって学ぶ」という経験主義を主張した。
- 経験とは人間の活動と環境の間の相互作用から形成され、したがって、教育とは「その後の経験を成長させるように経験を再構成すること」に他ならないと主張した。

名前（国）	キルパトリック（米）	生 年	1871-1965
主な著書			
キーワード	プロジェクト・メソッド		

- 米の教育学者・デューイ教育学（新教育運動）の継承者
- 「生活即教育」の方法論を展開し「プロジェクト法」を理論化した。
- 「プロジェクト」
社会環境の中で行われる全精神を打ち込んだ目的ある活動
社会生活における具体的な問題解決のための自己活動
順序：問題の設定—計画の立案—計画の実施—評価

名前（国）	ウォッシュバーン（米）	生 年	1889-1968
主な著書			
キーワード	ウィネトカ・プラン		

○米の教育家・進歩主義教育運動の中心的指導者

○イリノイ州ウィネトカ市の教育長時にプランを考案した。

○学習進度の個別化を図ることや創造的活動を重視した。

○教育課程を、基礎教科（数学、国語等）と集团的・創造的活動（音楽、体育等）に区分した。

○カリキュラムは、読み・書き・計算といった共通基本の内容について個別学習を行う「コモン・エッセンシャルズ」と、クラスを単位として、集団精神、独創性等を培う「集团的・創造的活動」から構成した。

名前（国）	エレン・ケイ（スウェーデン）	生 年	1849-1926
主な著書	『児童の世紀』		
キーワード	教育の最大の秘訣は、教育しないことにある。		

○スウェーデンの女性思想家

○「児童から」のスローガンのもと、ルソーの「消極教育」を徹底した。

○幸福な子どもこそが理想的な人間になることができるという前提で、自由で幸福な家庭、自然な教育を実践する学校、女性が解放される社会が建設されなければならないと主張した。

名前（国）	モンテッソリ（伊）	生 年	1870-1952
主な著書	『モンテッソリ法』		
キーワード	「子どもの家」		

○イタリアの医学博士・幼児教育者

○幼児にとって衛生的で安全な生活環境、知的な刺激の得られる教具が準備された学習環境の整備の必要性を主張した。

○ローマのスラム街の幼児を対象として「子どもの家」を開設して教育実践を指導し、保育環境の文化的な整備が幼児の発達を最大限に実現することを証明した。

名前（国）	ドクロリ（ベルギー）	生 年	1871-1932
主な著書			
キーワード	ドクロリー法		

- ベルギーの医者・心理学者・教育学者
- 1907年にブリュッセル郊外に、実験学校「生活による生活のための学校」を設立し、ドクロリー法を開発・実践した。
- 生活の理解，生活への参加を目標とする独自の「連合観念教科案」に基づき、児童の興味を重視しながら、観察－連合－発表の順序に従って学習活動を展開するもの。
- 障害児についての臨床医学的研究の実験的な教育に取り組み、知的障害児を対象とする生活主義的教育法を提唱した。

20世紀 教育の現代化

名前（国）	ブルーナー（米）	生 年	1915-2016
主な著書	『教育の過程』		
キーワード	「発見学習」「教育の現代化」「内発的動機付け」「ウッズ・ホール会議」		

○アメリカの認知心理学者

○科学技術の立ち後れを背景に、理科や数学などの自然科学系の教科をはじめとして、各分野の教科でいっせいに内容の高度化を図る必要があるとした「教育の現代化」の主導的存在となった。

○自然科学教育の改善ために開かれたウッズ・ホール会議の成果をまとめ「教育の過程」を発表した。

○学習者自らの内発的動機により、問題を解決する能力や学習の仕方等を発見することを主眼に置いた「発見学習」を提唱した。

○「どの年齢のだれに対しても、どんなものでもそのままのなんらかの形で教えることが可能である」という確信のもとで、「教材の構造化」の方法を提起した。